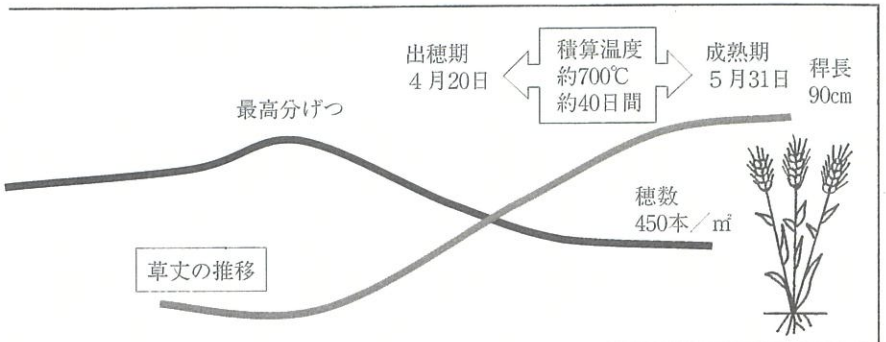
大麦（ファイバースノウ）の栽培基準

生育ステージ

良質大麦生産のポイント
- ◎排水対策の徹底
- ◎土づくりの実践
- ◎適正な播種量
- ◎生育に応じた追肥（分施）
- ◎赤かび病適期防除
- ◎適期収穫

収量目標 400kg／10a
- 穂数 450本／㎡
- 1穂着粒数 30粒
- 千粒重 35g
- 登熟歩合 85%

茎数の推移



時期	9月下旬～10月	11月～12月	3月～4月	5月～6月
生育期	播種準備～播種・発芽期	分げつ期	草丈伸長期	出穂期～収穫期

主な作業内容

播種作業

サブソイラーによる透水性の改善
額縁排水溝と基幹排水溝の設置

土づくり

種子消毒

播種作業
- 幅30cm、深さ20cmの溝を掘り、額縁排水溝
- 畦幅は3m以内にする
- 砕土はできるだけ細かく行う
- **耕起から播種まで1日で完了する**

年内追肥①
- 排水溝を補修する
- 畦がカマボコ型になるように手直しする
- 播種1ヶ月後（本葉3~4葉期）施用（硫安20kg／10a）

年内追肥②
- 12月上旬に色ざめが見られたら行う（硫安10kg以内／10a）

根雪期間
- 排水溝を補修して湿害を防止

消雪後追肥
- 消雪直後に野そ駆除の実施
- 消雪直後に速やかに（硫安15～20kg／10a）

排水溝の手直し

止葉展開期追肥 4/9
- 止葉展開期に茎数と葉色に応じて施用（硫安5～10kg／10a）

※一発肥料（エコ大麦44号）を使用した場合は追肥しない

赤かび病防除 4月下旬
- 穂揃期とその7日後の2回防除

異種穀粒の混入防止
- 刈取前にほ場内のカラスノエンドウを除去

刈取
- 麦、米相互の混入を防ぐため、コンバインの清掃を徹底
- 子実水分30%以下になったら行う

○土づくり（10a当たり）

資材名	施用量
シェルホス または	100kg
苦土石灰	100kg
＋ 粒状ようりん※	40kg
堆肥	2㎥（1t）

※土壌中のリン酸が目標値以上の場合は施用しない。

○種子量（10a当たり）

	9月25日～	10月上旬	10月中旬
ドリル播	6kg	6.5kg	8.5kg
表面散播	6.5kg	7kg	9kg

○基肥量（10a当たり）

肥料名	施用量
エコ大麦44号	40～45kg
基肥555	側条30kg
	全層35kg

○種子消毒の方法

薬剤粉衣		ベンレートT水和剤20を種子重量の0.5%の割合で均一に粉衣（乾燥種子10kgに対し水200mℓ、薬剤50g）
温湯消毒	風呂湯	42℃の風呂湯に浸漬し、1時間に1℃下がるようにフタをし、10時間後に取り出す
	循環式催芽器	45℃の湯に入れ、2時間30分浸漬する

○赤かび病防除

	1回目（穂揃期）	2回目（1回目から7日後）
粉剤区	トップジンM粉剤DL 4kg／10a 収穫14日前まで	ワークアップ粉剤DL 3kg／10a 収穫7日前まで
液剤区	トップジンM水和剤 1000倍液 150ℓ／10a 収穫30日前まで	ワークアップフロアブル 2000倍液 150ℓ／10a 収穫7日前まで
無人航空機区	トップジンMゾル 8倍液 0.8ℓ／10a 収穫21日前まで	ワークアップフロアブル 16倍液 0.8ℓ／10a 収穫7日前まで